



1. 東葉高速・北総鉄道・TXの決算等

本年7/3の総合企画企業常任委員会で**東葉高速鉄道等3社の2023年度決算**の運輸収入や当期純利益等を確認。前年度及びコロナ前の2019年度との比較も問うと、**運輸収入は対前年度比では約0.8~11%増**でしたが、**新型コロナウイルス流行前の対2019年度比だとまだ▲3~17%**。2022年度決算ではコロナ前比が**▲11~18%**だったので、**東葉とTXはほぼコロナ前に戻った**。北総のコロナ前比だけが2割弱のマイナスとなっているが、一昨年10月の大幅値下げの影響も大きいので、**輸送人員で見た北総のコロナ前比▲1.3%は驚異的な数字**と言ってもいいかもしれない。

決算、億円	東葉高速	北総鉄道	TX(つくば)
運輸収入	153	105	434
前年度比	+7.7%	+0.8%	+10.8%
コロナ前比	▲4.1%	▲17%	▲3.4%
当期純利益	33.1	18.7	60.7
同上前期差	+6.4	+1.1	+39.3
繰越利益剰余金	▲601	21.6	76.1
同上前期差	+33.1	+18.7	+60.7
純資産	25.0	27.1	1,926
同上前期差	+33.1	+1.9	+60.7
長期債務	2202	541	4163
同上前期差	▲96	▲37	▲195

当期純利益では、東葉高速が前期比6億円増の33億円の黒字で、コロナ前の32億円をついに超え、さらに債務超過が1997年度決算以降初めて解消され、純資産が25億円の黒字となった。しかし、超低金利時代の終了で、前期は3億円減だった利払いが9.1億円と微増に転じた。長期債務を96億円も減らしたのに利払いが微増ということは金利上昇の影響が出始めたことを意味する。従って、債務超過解消を喜んでいられるわけではなく、2202億円もの巨額の長期債務と601億円の累積損失が、金利上昇で改めて懸念材料として浮き彫りに。**北総鉄道の通学定期値下げで利用客14%アップ!**

今回は、北総鉄道の値下げの影響を厳密に検証してみた。値下げが2022年10月からだったので、10月を起点とした値下げ前の12ヶ月と値下げ後の12ヶ月の比較で答弁を求めた。その結果は、**旅客運輸収入では4.2%の減**だが、**輸送人員では14.1%増**であった。東葉高速が、2014年度からの通学定期値下げに伴う減収を上回る旅客増を達成するのに約4年かかったことを思い起こすと、順調なスタートと言えるだろう。

そのさらなる根拠は旅客運輸収入の伸び率。実は、営業収入全体は、旅客運輸収入が上記表にあるように前期比微増を達成しているのに、線路使用料の契約変更に伴う大幅減のせい

で営業収入は約6億円減の133億円と約4%減となったのだ。どうしてもこちらの数字の方が取り上げられやすいので、営業収入が4%減と聞くと値下げの影響かと思ってしまうのですが、**旅客運輸収入を見ると前期比微増となっていたのです**。以上より、**北総鉄道の2022年10月の通学定期の大幅値下げ等の決算指標への負の影響はかなり限定的**であり、やや大きく見える指標は線路使用料収入の減の影響を受けていると判明。つまり、**大幅値下げの減収分を大幅な利用者増が早くも相殺しつつある**、という好循環。東葉高速がまさに参考とすべき事例。

2. 県&市町村の住宅用ソーラー支援

本年8/28、県の太陽光発電設備等共同購入支援事業の住宅分の今年度の申込が締め切られた(事業者分は2年目で、10/1募集開始)。申込者全員が契約に至るとは限らないので、まだ契約件数は確定していない。2024年度が3回目。過去2回では、最初の2022年度が申込2171件で契約件数が231、2023年度が申込2259件で契約件数が155。約35%減は残念だが、**平均市場価格からの割引率が、2年目は1年目と比べて、太陽光パネルのみと、パネル&蓄電池セットで数ポイント下がり、蓄電池のみは18%から28%に上がった**。今年度の例では、5.2kWのパネルのみの場合、割引率15%で約135万円、7.4kWhの蓄電池のみの場合、28%引きの約147万円、同容量のパネルと蓄電池のセットの場合、15%割引の約292万円になるという。

蓄電池の割引率は2年目から3割近くに上がりましたが、パネルや蓄電池の割引率の低下が少し気になるようです。

太陽光パネル等の共同購入利用時の割引率(住宅分)

	太陽光&蓄電池	蓄電池のみ
2022年度	22%	18%
2023年度	19%	28%
2024年度	15%	28%

こうした状況でも、**市町村単独事業で住宅用太陽光発電設備等設置補助を継続・再開している県内自治体は数で3割強(15市4町)**ですが、人口のカバー率では約57%に及ぶ。

住宅用太陽光パネル設置補助市町村(2024年度)

1.千葉市	2.船橋市	3.市川市
4.市原市	5.流山市	6.佐倉市
7.成田市	8.我孫子市	9.鎌ヶ谷市
10.茂原市	11.君津市	12.香取市
13.旭市	14.南房総市	15.匝瑳市
1.酒々井町	2.多古町	3.東庄町
4.神崎町	人口の多い順(2024年9月現在)	

ボランティア・インターン・地方議員志望者募集中